



採れたて 阿蘇産トマトはいかが？

リコピン、ビタミンA、カリウム、食物繊維、鉄分……。挙げるときりがない栄養たっぷりのトマト。品種も豊富で8000種を超えるとも言われます。

いよいよ出荷が始まった阿蘇産トマト。丹精込めて作られた、甘くてジューシーな旬のトマトを食べて、この夏を乗り切りろう！





特集

採れたて阿蘇産トマトはいかが？



6月から出荷が始まったトマト。役犬原にある阿蘇町野菜センター（トマト選果場）には、早朝から次々に摘みたてのトマトが持ち込まれ、一つ一つ選果される。7月から8月にかけて出荷量はピークを迎え、11月まで九州を中心に出荷される。

阿蘇市は全国有数の夏秋トマト産地！

毎日の食卓に並ぶ野菜の代表格といえ、**「トマト」**を思い浮かべる人も少なくないのではないだろうか？そんな、私たちの食卓に欠かせないトマト。ここ阿蘇市が全国有数のトマト産地ということをご存知ですか？

農林水産省がまとめた「平成25年野菜生産出荷統計」によると、阿蘇市の夏秋トマト年間出荷量は4160tで全国でも7位となっており（下記グラフ参照）、県内でも八代市、山都町に次ぐ出荷量となっています。また、JA阿蘇中部の野菜販売額約

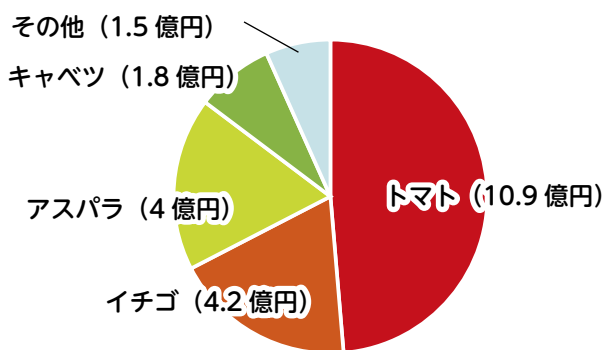
22・4億円のうち、夏秋トマトは約半分の11億円を売り上げ、阿蘇市の基幹産業である農業の一翼を担う野菜の一つと言えます。

阿蘇で主に生産されるトマトは「りんか409」という品種で、大玉で口の中でするけるような食感と、高糖度でコクがあるのが特徴です。特に阿蘇は寒暖の差が大きいなどトマトの生産に適した環境が整っており、より美味しいトマトになります。

今月号は、消費喚起特集として、皆さんのパワーの源トマトの「今」をお届けします。

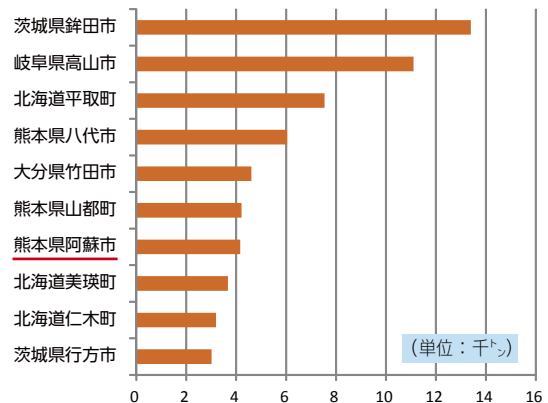
グラフに見る阿蘇産トマト

平成26年度 JA 阿蘇管内野菜販売額



平成26年度の野菜販売額約22億5,000円のうち、トマトは約半数にあたる約11億円となっている。今年度は前年比2割増の約13億円を目標に掲げている。

平成25年夏秋トマト出荷量トップ10



夏秋トマト生産に適した高冷地の市町村が上位を占める。JA阿蘇中部の出荷量も年々、増加傾向にある。



妻・裕子さんに抱っこされるのは、ことし2月に生まれた未来ちゃん。
新しい家族が増え、農業にも力が入る。

世界に通用する生産技術を。

Interview 鰐川雄太さん

「もともと農業には興味があったが、誰もが口をそろえて『他県非農家は無理』と言われ、踏み出せなかった」。

東京都出身の鰐川さんが、サラリーマンを辞め農業を志したのは、受け入れ農家である師匠・斉藤信幸さん（坂梨）との出会いがきっかけだった。「斉藤さんのところでやったほうがいい」と妻裕子さんの言葉が背中を押し、たった数日間です農を決断。冷涼な気候という阿蘇の土地が、ほかの農業に比べ初期投資が低く抑えられる農業形態であることも決断を後押しし、農業の知識は全くない状態で6カ月の厳しい研修を経て、独立し、現在4年目を迎える。

「トマト栽培は、要点を押えて努力すれば報われる。手を抜けばそれが自分に返ってくる。分かりやすいところが面白い」と毎朝4時に起床し、最盛期は日の出とともに収穫。その後の管理作業などに汗を流す。

「新規就農」と「トマト栽培」

新規就農時には、さまざまな新規就農支援制度を活用したという鰐川さん。「新規者は経営基盤が弱い。なるべく借入